

＜ERECON ESD 研修＞カンボジア国での植林活動 2022 年 8 月

2022 年 8 月 22 日～31 日の 10 日間、ERECON ESD 研修としてカンボジア国での植林ボランティア活動を実施しました。本研修は、2021 年度「日中植林・植樹国際連帯事業」の助成事業「カンボジア国コンボンチャム州の農山村域における環境修復を目指した植林事業(フェーズ 2)」および「カンボジア国トボンクムン州における森林環境教育を目指した学校環境緑化の推進」の事業の一環として実施され、日本から 10 名の学生、カンボジア国から 3 名の学生が参加しました。実施にあたり、コンボンチャム州農林水産局、トボンクムン州農林水産局、カンボジア国立農業大学、コンボンチャム国立農業大学、カンボジア国ラバー研究所、その他各事業地の住民より協力・支援を頂きました。

研修では、日本人学生とカンボジア人学生がグループを組み、NGO が実施する植林活動や普及啓発活動に取り組むとともに、カンボジア国の歴史・社会・文化を知る様々な体験を通して、植林の重要性や持続可能な森林管理の難しさについて知見を深めていきました。研修の最後には、共通課題の「持続的な植林地管理における課題発掘と課題解決へのアクションプラン」について、各グループが英語で発表し合い、「人と自然との共生の在り方」や「持続可能な開発」へのアプローチ方法について、議論を発展させることができました。

【活動スケジュール】

月日	活動	宿泊地
8/22 (月)	・現地集合 ・グループでの普及啓発活動(ワークショップ)の実施準備	プノンペン市街
8/23 (火)	・キリング・フィールド訪問 ・カンボジア国立農業大学訪問 ・トゥールスレン虐殺博物館訪問 ・ロイヤル・パレス・パーク散策 ・メコン河周遊クルージング	プノンペン市街
8/24 (水)	・陸路移動(コンボンチャム州へ) ・コンボンチャム国立農業大学訪問・学生同士の交流・グループワークの実施 ・州森林局が管理する苗床の見学 ・小学校での植林活動およびワークショップの開催	コンボンチャム市街
8/25 (木)	・寺院での環境修復を目指した植林活動およびワークショップの開催 ・課題に向けたグループディスカッション ・古代寺院の訪問	コンボンチャム市街
8/26 (金)	・コンボンチャム国立農業大学でのグループ発表(課題:持続的な森林管理における課題)	コンボンチャム市街
8/27 (土)	・コンボンチャム観光	コンボンチャム市街
8/28 (日)	・陸路移動(トボンクムン州へ) ・ラバー研究所への訪問・見学と樹液採取(タッピング)体験 ・小学校におけるワークショップの開催 ・課題に向けたグループディスカッション	トボンクムン州
8/29 (月)	・小学校における学校環境緑化を目指した植林活動およびワークショップの開催 ・課題に向けたグループディスカッション	コンボンチャム市街
8/30 (火)	・陸路移動(プノンペン市街へ) ・グループ発表(課題:持続的な森林管理における課題へのアクションプラン) ・修了式	プノンペン市街
8/31 (水)	・プノンペン市街観光(ローカルマーケットでの買い物等) ・現地解散	—

【活動写真】



カンボジア国立農業大学訪問



ロイヤル・パレス・パーク散策



コンボンチャム国立農業大学の学生とのグループワーク



州森林局が管理する苗床の見学



寺院での環境修復を目指した植林活動



ワークショップを実施した小学校での集合写真



小学校での学校環境緑化を目指した植林活動



グループディスカッションの様子



森林環境教育を目指したワークショップの開催



グループ発表の様子



異文化交流のためのワークショップの開催

【参加者の声(一部)】

- ・自分の価値観が変わりました。植林や現地学生とグループになって取り組んだ課題では、相手に意見が伝わらず悩んだこともありましたが、こんな素晴らしい体験は初めてで、一生忘れません。
- ・植林は初めてでしたが現地の小学生が植林に慣れており驚きでした。ワークショップでは言葉はほとんど通じなかったけど、感性豊かで純粋な子供たちと身振り手振りで会話するのがとても楽しかった。
- ・人生で最も刺激的な 10 日間でした。普段大学で学んでいることは異なるフィールドで、貴重な経験ができ、今までは遠い国の話だと思っていたカンボジアが身近な存在になり嬉しかったです。中でも子供たちとの交流が 1 番印象に残りました。彼らの未来のために、帰国後も環境、教育、貧困などあらゆる課題に関心を持ち、自分が出来ることは何でもトライしてみようと思わせてくれる研修でした。
- ・支援者側の思いや支援を受けている方々の立場をはじめて認識し、外部からの支援の難しさを学びました。このような活動は世界の諸問題を改善する貴重な足掛かりとなると確信しています。これからもドナーと ERECON にはこのような研修を続けてほしいです。